

2020年12月14日

第2回 地域プロモーション大賞 決定！

大賞は【動画部門】青森県弘前市 【パンフレット部門】愛媛県宇和島市

主催：一般財団法人地域活性化センター 後援：時事通信社、共同通信社

一般財団法人地域活性化センターでは、地域の魅力を国内外に発信する広報 PR 活動の一助とするために、地域プロモーション事業の推進を行っています。その一環として、令和元年度より、優れた PR 動画やパンフレットを表彰する「地域プロモーション大賞」を実施しています。

この度、第2回の各賞が決定しましたので下記のとおりご報告いたします。

なお、大賞受賞団体の表彰式を 2021 年 2 月（日程調整中）に開催予定です。

記

1. 名称 「第2回 地域プロモーション大賞」
2. 目的 動画やパンフレットを活用して、優れた地域のプロモーションを行っている団体を表彰し、その取り組みを他地域の参考としてもらう。

3. 各賞大賞

▼動画部門（ふるさと動画大賞）

募集テーマ

「会いにいけなくても繋がれる 地域プロモーション動画」

応募作品数：125点 受賞作品数：8点

賞（各1点）	受賞自治体・作品名
大賞	青森県弘前市「101回目への弘前公園の桜（2020）」
優秀賞	佐賀県小城市「小城のおと」
箭内道彦賞	東京都品川区「品川海苔PR動画」
秋吉久美子賞	東京都墨田区「人と人とのつながりを未来へ～駄菓子屋編～」
木川剛志賞	栃木県佐野市「MY CITY」
松原亨賞	宮崎県串間市「温故知新～夢は、南の果てにある。～」
谷中修吾賞	鹿児島県指宿市「読めない、指宿」
地域活性化センター賞	広島県廿日市市「はつかいち物語 愛の取調べ室」

▼パンフレット部門（ふるさとパンフレット大賞）

募集テーマ

「わくわく ドキドキ！ わたしのまちの魅力発信」

応募作品数：107点 受賞作品数：8点

賞（各1点）	受賞自治体・作品名
大賞	愛媛県宇和島市「宇和島本」
優秀賞	香川県小豆島町「小豆島町勢要覧「わたしは、小豆島。」」
南伸坊賞	栃木県栃木市「地と」
楓千里賞	東京都東大和市「デザインマンホール設置マップ」
バックン賞	埼玉県越谷市「こしがやエモイマップ」
マクン賞	北海道北見市「北見焼肉指南～焼肉といえど北見でしょ。～」
地域活性化センター賞	京都府福知山市「明智光秀からの「謀反のお知らせハガキ」」
特別賞	新潟県南魚沼市「南魚沼産コシヒカリ 農/KNOW THE FUTURE」

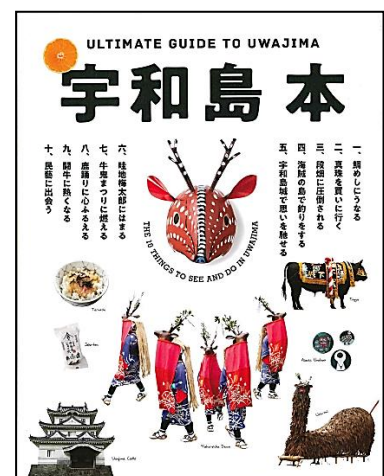
▼大賞作品 青森県弘前市

101 回目への弘前公園の桜(2020)



▶大賞作品

愛媛県宇和島市
宇和島本



4. 詳細情報は、地域活性化センターHPもご覧ください！ <http://www.jcrd.jp/>

お問い合わせ先：一般財団法人 地域活性化センター 情報・広報グループ 広報室

広報室長 畠田 / 動画部門 石原 / パンフレット部門 柏木

電話：03-5202-6137 メール：kouhou@jcrd.jp

第2回ふるさと動画大賞 審査結果

開催趣旨

近年のスマートフォンの普及、動画配信サービスの発達などにより、動画コンテンツはとりわけ若年層の日常に溶け込んでおり、自治体においても動画を活用した国内・海外向けのプロモーションは欠かせないものとなっている。この流れを受け、当センターでは、動画による地域情報発信を支援するために、「ふるさと動画大賞」を実施する。

審査委員

審査委員長	箭内 道彦 氏	(クリエイティブディレクター)
審査委員	秋吉 久美子 氏	(女優)
	木川 剛志 氏	(和歌山大学観光学部 教授)
	松原 亨 氏	((株)マガジンハウス コロカル編集部編集長)
	谷中 修吾 氏	(一般社団法人INSPIRE 代表理事)
	北村 潤一郎	(一般財団法人地域活性化センター 常務理事)

募集テーマ

会いにいけなくても繋がれる 地域プロモーション動画

キーワード：地域資源・関係人口・移住

応募作品数

125点

受賞作品数

8点

賞 (各1点)	受賞自治体・作品名
大賞	青森県弘前市「101回目への弘前公園の桜 (2020)」
優秀賞	佐賀県小城市「小城のおと」
箭内道彦賞	東京都品川区「品川海苔PR動画」
秋吉久美子賞	東京都墨田区「人と人とのつながりを未来へ～駄菓子屋編～」
木川剛志賞	栃木県佐野市「MY CITY」
松原亨賞	宮崎県串間市「温故知新～夢は、南の果てにある。～」
谷中修吾賞	鹿児島県指宿市「読めない、指宿」
地域活性化 センター賞	広島県廿日市市「はつかいち物語 愛の取調べ室」

第2回ふるさと動画大賞 入賞作品

大賞 青森県弘前市

101回目への弘前公園の桜 (2020)



優秀賞 佐賀県小城市

小城のおと



箭内道彦賞 東京都品川区

品川海苔PR動画



秋吉久美子賞 東京都墨田区

人と人とのつながりを未来へ～駄菓子屋編～



木川剛志賞 栃木県佐野市

「MY CITY」



松原亨賞 宮城県串間市

温故知新～夢は、南の果てにある。～



谷中修吾賞 鹿児島県指宿市

「読めない、指宿」



地域活性化センター賞 広島県廿日市市

はつかいち物語 愛の取調べ室



大賞

青森県弘前市

101回目への弘前公園の桜（2020）



URL : <https://www.youtube.com/watch?v=sFjEYf1Y7x0>

作品概要

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、記念すべき100回目の「弘前さくらまつり」が中止となり、園内も閉鎖された春の弘前公園。吹き抜ける風の音と鳥のさえずりだけが聞こえる中、桜は見事に咲き誇り、桜吹雪が舞い散る神秘的な雰囲気に包まれていました。散ったその瞬間からまた咲く準備を始める桜のように、この難局を共に乗り越え、来春の101回目の桜を皆さんと迎えたい。

日本一の桜とも称される弘前公園の桜と、その桜を守る樹木医「チーム桜守」をはじめとした作業員の姿を追いかけたドキュメンタリー映像作品。

審査コメント（講評から抜粋）

- ・コロナ禍に訪れることのできない無人の光景を、圧倒的に美しい映像と編集で、迎えられなかった側の思いと願いを観る側の想像力とともに伝えた。今を生きる命のメッセージです。長尺なのに一度も目が離せない。見事でした。
- ・音楽 映像 編集の力が突出している。まだ見ぬ弘前の桜に大きなドラマがある。日本本土の最北端青森の弘前で咲き乱れ、散り積もる桜、桜、桜花の狂おしい。桜に覆われた別世界。心が泣いた。
- ・第100回弘前さくらまつりが中止となり公園が閉鎖されるという特別な状況下、無人の園内で撮影されたものである。桜だけが見事に咲き誇り桜吹雪が舞い散る神秘的な映像は、思わず息をのむ美しさであった。同時に、人間の暮らしをはるかに超えたスケールで繰り返される自然の営みの雄大さに思いをはせずにはいられなかった。
- ・コロナ禍に翻弄された今年だからこそ生まれた映像でした。心を込めて桜を支える人たちの優しさが美しい映像とともに届きました。

受賞団体コメント（青森県弘前市首都圏キャンペーン実行委員会 事務局 弘前市観光課）

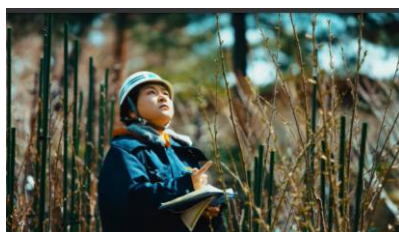
このたびは、「第2回ふるさと動画大賞」の大賞という大変名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

青森県弘前（ひろさき）市は「お城とさくらとりんごのまち」として親しまれ、春の弘前公園は全国的な桜の名所として知られていますが、残念ながら100回目を数える「弘前さくらまつり」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点より、第二次世界大戦の影響があった1944～1946年以来の中止となりました。今回の動画はwithコロナ時代のプロモーションとして、市民をはじめ県内外の方々へ映像を通して弘前公園の桜をお楽しみいただきたいと制作したものです。

来春こそ、弘前の桜を見ていただきたいと心より願っております。

動画の注目ポイント

2:55～ 誰もいない公園で、儚くも豪快に舞い散る桜吹雪をぜひご覧ください！



優秀賞

佐賀県小城市

小城のおと



作品概要

佐賀県小城市は、たくさんの音であふれています。「小城のおと」は、小城市の産品や風景の音に着目し、音を主役にしたASMR動画です。小城が誇る名品小城羊羹、全国名水百選の一つ清水川の上流にある清水の滝、有明海のムツゴロウなど、多くの奏でる音で小城の魅力をぜひ味わってください。

※ASMR (Autonomous Sensory Meridian Response)
人が聴覚や視覚への刺激によって感じる、心地良い、脳がゾワゾワするといった反応・感覚。

URL : https://www.youtube.com/watch?time_continue=4&v=8djH-2PDZX4&feature=emb_logo

審査コメント (講評から抜粋)

- ・優秀賞の小城市は、音に着想するという発見が大変素晴らしかった。映像のクオリティも高い。グランプリの弘前市もそうですが、ナレーションが一切ない。寡黙という雄弁に強く惹き込まれました。
- ・斬新な映像でした。映像は視覚だけでなく五感に響くもののはず。ところがやはり視覚に依存する我々がいます。聴覚による想像を喚起させる表現によって逆に全ての豊かさを感じることができ映像でした。
- ・「音」を主役として小城の風景や特産品の魅力がうまく引き出されており、味わい深い作品に仕上がっている。

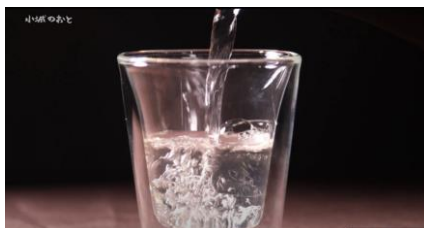
受賞団体コメント (佐賀県小城市総合戦略課)

この度は、第2回ふるさと動画大賞において、「優秀賞」という光栄な賞を賜り、誠にありがとうございます。小城市には、伝統ある銘菓小城羊羹や清涼な小城の名水から生まれる日本酒など多くの産品があります。今回受賞しました動画は、昔羊羹と言われる小城羊羹を切るサクッという音や日本酒をグラスに注ぐ音、市南部の有明海の干潟に生息するムツゴロウがピョンピョン飛び跳ねる音など小城の産品や風景が奏でる音に着目した作品です。

本動画をご覧いただいた方が、これをきっかけに小城市に興味を持っていただき、ぜひ小城市へ足を運んでいただき、音はもちろんのこと五感で小城市を感じていただければ幸いです。

動画の注目ポイント

小城にあふれるたくさんの「音」を聞いて、心地よく、ゾワゾワっとするような感覚を体感してほしい！



箭内道彦賞

東京都品川区

品川海苔PR動画



作品概要

江戸時代より栄えた品川の手荒海苔養殖は東京オリンピック開催を翌年に控えた昭和38(1963)年にその幕を閉じました。「品川海苔PR動画」は、品川の手荒海苔養殖の歴史や文化を、2度目の東京オリンピック開催に合わせて改めて広くPRするため、令和2年2月6日「海苔の日」に公開されました。この動画は、区民が参加したワークショップから生まれたアイデアに基づき、区内の手荒海苔店6店から協賛を募り、区内在住の切り絵アーティストである田中良平さんとコラボし、品川区が制作。手荒海苔の切り絵による自治体PR動画は全国初です。

URL : <https://youtu.be/lD1hMharauo?list=PL8B-p11mIyo4EFcE1QJ1PvDOuSzdZhVft>



箭内道彦審査委員長

審査コメント

手荒海苔だけで、これだけの表現をしたこと、素敵です。凄い。東京・江戸の粋と技と品に溢れ、歴史とドラマが息吹く、無二の作品でした。今、群雄割拠の地域プロモーション動画に必要なものは、平均点に収まらない、オーバーオリティ・スーパークリエイティブであると感じています。

受賞団体コメント（東京都品川区企画部広報広聴課シティプロモーション担当）

この度は「箭内道彦賞」をいただき、誠にありがとうございます。

「品川手荒海苔」の歴史はあまり知られていませんが、手荒海苔巻きあられの「品川巻」や品川宿の鉄火場(博打場)が発祥とも言われる「鉄火巻き」など、手荒海苔養殖や狹師町、宿場町として栄えた品川のまち文化は、現在も脈々と息づいています。企画から素材提供、作品制作にいたるまで、多くの区民の皆さまの“品川愛”がぎゅっと詰まった映像になっています。この動画を通じて、区外の方や子どもたちが、東京オリンピックと品川の手荒海苔養殖との意外な関係に気づき、品川区の歴史や文化について少しでも興味を持っていただけると嬉しいです。

「品川手荒海苔PR動画」のように、これからも区民の皆さまと共に品川区の魅力を発信してまいります。

動画の注目ポイント

本物の焼き手荒海苔による切り絵作品を約60点使った映像は必見です。焼き手荒海苔をどうやって切り絵にしたのか想像しながら、また、作品ごとに異なる手荒海苔の質感にも注目しながらご覧ください。



秋吉久美子賞

東京都墨田区

人と人とのつながりを未来へ～駄菓子屋編～



作品概要

墨田区制が2017年で70周年となり、それを記念して制作した動画です。墨田区のシティプロモーションのテーマである「人と人とのつながり」に沿いながら、墨田区の歩みについて紹介し、これからの墨田区制の発展について共有できるものとなっています。本作品は駄菓子屋編となっていますが、5分30秒ほどの本編も墨田区公式YouTubeにアップしていますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

URL : <https://youtu.be/lcw6S6Q7aqU>



▲秋吉久美子審査員

審査コメント

そこには人がいる。そこには住む人がいる。

外側から地域の情報として紹介するのではなく、墨田区に根づく一人の人間のノンフィクションという手法を通して、墨田区の根底にある温かさを体感させる。墨田区の駄菓子屋の女主の人生観、そして彼女の人柄、伝わる真実の力。地域の人々との関わりを豊かに描くことによって、墨田区の地域性を感じ、その魅力に惹かれて行く。人と地域の濃密な関係性から、日本の良さ、日本人の良さ、人間の暮らしのあり方まで認識し直すことができた。秀逸な一作。小さな映画を観ているようだった。小さな映画ではあるが、しみじみとした温かい感動があった。

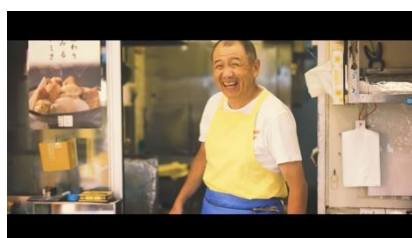
受賞団体コメント（東京都墨田区広報広聴担当）

このたびは、第2回ふるさと動画大賞の「秋吉久美子賞」を賜り、誠にありがとうございます。墨田区は隅田川の花火や花見、大相撲、伝統工芸など歴史や文化の香り高い、下町人情あふれるまちです。近年は、東京スカイツリーの開業をはじめ、すみだ北斎美術館の開館等により、新たな賑わいが生まれています。この動画は、墨田区の特徴でもある「人と人とのつながり」をテーマに、すべての人につながるの温かさを魅力に感じてもらえるよう制作しました。新型コロナウイルス感染症の影響によって、人と人とのつながりが希薄になることが懸念されています。

この動画を通じて、人の温かみに触れていただき、墨田区の魅力を少しでも感じていただければ幸いです。

動画の注目ポイント

昔懐かしい駄菓子屋で、下町人情にあふれたおばあちゃんと子どもたちが触れ合っている様子は、墨田区らしい風景なので、ぜひ見てもらいたいです！



木川剛志賞

栃木県佐野市

「MY CITY」



作品概要

さのまるは、2013年に「ゆるキャラ®グランプリ」で優勝したことで知名度が上がり、佐野市の認知度向上にも貢献しました。20～30代から支持を受け、テレビやネット番組等で活躍するラッパー「DOTAMA」（佐野市出身）に協力を仰ぎ、佐野市の認知度向上のため、動画制作を行いました。ぜひご覧ください。

URL : <https://youtu.be/2gDjrzebH3M>



木川剛志審査員

審査コメント

多くの応募映像の中で、いちばん“地元感”が現れていた映像だったのではないのでしょうか。やはりヒップホップには地元が伴います。決してポジティブに街の発展を期待しているわけじゃない、でも当たり前な街、日常の街、それが自分の生まれた街だからこそ全身でSANOを受け止める。その自信が心地良いリックとともに響いた映像でした。そして自分の街にも自信が持てました。

受賞団体コメント（栃木県佐野市都市ブランド推進課）

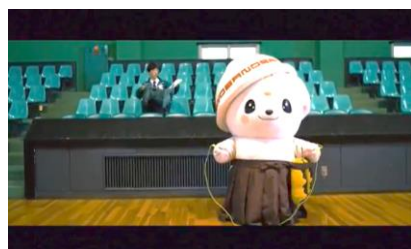
この度は、「木川剛志賞」にご選出いただき誠にありがとうございます！

さのまるの生まれ故郷「佐野市」の魅力をお伝えできればと思い制作しました。制作に携わったDOTAMAさんから「この度は輝かしい賞を頂き、誠に光栄であります。有難うございます。楽曲では生まれ故郷への思いを歌い、映像にも小野監督とその気持ちを込めさせて頂きました。地域の魅力はそこに暮らしている人びと自身にあると感じています。私の大好きな人たちが暮らす佐野市。その魅力を多くの人に知って頂くきっかけになれば嬉しいです。」とコメントをいただきました。

PVの視聴だけでなく、ぜひ佐野市に足を運んでいただき佐野市の魅力を感じてください。きっとあなたにとってもMY CITYになるはずです。「さのまる」も皆様のお越しをお待ちしています。

動画の注目ポイント

2：00～2：30。さのまるが地元を盛り上げようとDOTAMAと修行をするシーンでは、さのまるの可愛い動きを存分にお楽しみいただけます。



松原亨賞

宮崎県串間市

温故知新～夢は、南の果てにある。～



作品概要

串間市は宮崎県の最南端に位置し、高鍋藩の飛び地でお城はなく、郡代が置かれた土地です。よって、城下町などに見られる艶やかさはありません。しかしながら、軍馬の牧であった都井岬を今でも守っているように、地域に根付いた伝統や文化が粛々と受け継がれています。古事記などに見られる、宮崎県における神話は県北地域が有名ですが、ここ県南地域でもその面影が多く残っています。「粛々と」を移住者目線で伝えています。

URL : https://ja-jp.facebook.com/558403730884026/videos/662760184401389/?__so__=channel_tab&__rv__=all_videos_card



松原亨審査員 審査コメント

移住者のふくしまあやのさんも、串間市の自然や文化も、最後のブリ丼も、すべてが魅力的に映るのは、もちろんそれらがみんな本当に魅力的だからだろうけれども、小気味いい音と映像の編集によるものでもある。「自分の身の回りに起きていることが全部、非現実なんです。ドキドキするものがいっぱいある場所」と語るふくしまさんの感動がそのまま視聴者に伝わってくる。

受賞団体コメント（宮崎県串間市総合政策課）

「地域資源発掘と表舞台へ」という思いで制作した作品が、この度、「松原亨賞」受賞という評価を賜うことができ、一同大変嬉しく思っております。

この動画は、もとは過去に作られていたものであり、大々的にPRしていたものではありませんでした。ショートムービーながら、串間市をよく表現できていることから、地域おこし協力隊が移住者目線で編集しました。伝統行事である馬追いから始まり、串間市の古き良きモノに少しずつ新しきモノが入っていく様子を感じてもらえればと思います。

この動画を見て「串間市に行ってみたい」と思っただけの方が増えると幸いです。串間市のファンが増え、新たな交流ができることを願っております。皆様の来訪を心よりお待ちしております。誠にありがとうございました。

動画の注目ポイント

古き良きモノと新しきモノの場面と場面を想像し、楽しんでいただければ幸いです。

- ・ 動画の始まりの画面(0:02)
- ・ 地域の伝統行事に参加する子供たちの様子(1:36)
- ・ 串間産の食を楽しむ姿 (2:39)



谷中修吾賞

鹿児島県指宿市

「読めない、指宿」



作品概要

県外の人にはなかなか読めない「指宿」という地名をフックに、「予想外のサプライズがある、わくわくする指宿」としてストーリーが展開されます。「砂に埋もれる温泉」や「生産量日本一のそら豆」など、指宿を代表するような観光スポットや特産品をテンポよくコミカルかつシュールに紹介します。

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=dFhD3bVh29k>



▲谷中修吾審査員

審査コメント

圧倒的に突き抜けた動画でした。最高です。初見のインパクトは絶大で、確実に人の意識に食い込みます。視覚的にも聴覚的にも「読めない、指宿」の残像が残ります。脳内で動画が無限ループするほどの破壊力を有していると言えるでしょう。しかも、動画を見れば見るほど、指宿の特徴について興味関心を喚起させられる構成が秀逸です。結果として、「ちょっと検索してみよう」と思わせ、私自身も実際に検索してしまいました。地域プロモーションにおける動画の活用とは、まさにこういうことだと思います。

あとは、キーワード検索した人が着地するWEBの設計が最適化されていけばパーフェクトです。「読めない、指宿」が拡散され、ムスカ大佐が「読めろぞ、指宿」とコメントしてくれる日が来ることを心待ちにしています。

受賞団体コメント（鹿児島県指宿市産業振興部観光課ふるさと納税係）

この度は「谷中修吾賞」をいただき、誠にありがとうございます。
指宿市は、天然砂むし温泉が有名ですが、「砂むし」は知ってるけど「指宿」は読めない・知らないという方が多く、特に若い人には認知度が低いと感じていました。新たなPR動画を制作するにあたり、まずは知っていただかないと始まらないということで、「読めない」を逆手にとったインパクトのある動画をつくることになりました。動画は、本市出身お笑い芸人「久保遥」さんを起用し、インパクトのある映像と、テンポのいいオリジナルソングで、気が付けば「指宿」が頭から離れなくなります。

この動画をご覧いただいて、「指宿市っておもしろそうだな」と思っていたら、いつか旅行に来ていただければ幸いです。

動画の注目ポイント

1:13~1:30。若手農家がオクラとそら豆に顔ハメされたうえに食べられるという斬新な映像。
その他、本市出身お笑い芸人久保遥のキレのあるダンス、ノリノリの移住者、頭から離れないオリジナルソング。



地域活性化センター賞

広島県廿日市市

はつかいち物語 愛の取調べ室



URL : <https://youtu.be/Fj9IKqAlzvg>

作品概要

舞台は、廿日市市内のとある部屋。
そこには、向かい合って座わる2人の男の姿があった。2人の男を演じるのは、はつかいち応援大使でもあるシンガーソングライターの香川裕光さんと俳優の和泉崇司さん。
さとするように話しかける香川さんに、沈黙を貫ぬく和泉さん。しかし、最後には、せきを切ったように廿日市を語り出す。
そして、和泉さんのTシャツには「愛している♡廿日市」の文字が…。



北村潤一郎審査員

審査コメント

「はつかいち物語 愛の取調べ室」は、わずか1分の作品であるが、取調べ室という緊張感のある特殊な環境の中に廿日市市の見所やグルメが効果的にちりばめられており、自分もここで取調べを受けたい気持ちにさせられた。

受賞団体コメント（広島県廿日市市経営企画部シティプロモーション室）

この度は、「地域活性化センター賞」を賜り、誠にありがとうございます。

廿日市市は、広島市に隣接し、世界遺産「厳島神社」を擁する宮島の浮かぶ瀬戸内海から、西中国山地までの豊かな自然に恵まれ、四季の移ろいを感じられる、まさに日本をぎゅっと凝縮したような、遊ぶのにも暮らすのにも「ちょうどいい。」まちです。

廿日市市民の皆さんには、地元の魅力の再発見に、市民以外の皆さんには、はつかいちの魅力を知らせきっかけのひとつになればという思いから、この動画を制作しました。続編も近日中に公開します。お楽しみに！

あなたの「ちょうどいい。」が見つかる廿日市市に、ぜひお越しください。

動画の注目ポイント

緊張感が漂う中に、見え隠れする廿日市市の魅力。そして、テンポ良く、最後にたたみかけるようにオチへと突き進んでいく、90秒のドラマ。まばたき禁止。全編必見です！



審査委員講評

審査委員長 箭内 道彦 氏（クリエイティブディレクター）



昨年より高いレベルの作品が集まりました。どのふるさとにも共通する魅力で競うのではなく、それぞれの地域がそれぞれそこにしかないものに、耳を済ませ、胸を張り、趣向を凝らす、そんな動画と多く出会えました。

グランプリの弘前市は、コロナ禍に訪れることのできない無人の光景を、圧倒的に美しい映像と編集で、迎えられなかった側の思いと願いを観る側の想像力とともに伝えた。今を生きる命のメッセージです。長尺なのに一度も目が離せない。見事でした。

優秀賞の小城市は、音に着想するという発見が大変素晴らしかった。映像のクオリティも高い。グランプリの弘前市もそうですが、ナレーションが一切ない。寡黙という雄弁に強く惹き込まれました。

一方で、まだまだたくさんの地域が、音楽も映像も構成も、どこかの焼き直しのような動画を作っていて、機能を果たせていない。いろんな意味で勿体なかったです。

審査委員 秋吉 久美子 氏（女優）



愛せる作品 驚く作品 魅入られる作品 笑える作品 トンチが効いた作品。どの作品も創造性に溢れていて、センスも良く、楽しんで、一生懸命作っている。ふるさとに心を込める映像の数々、その素晴らしさに感動した。

その中で堂々の大賞「101回目への弘前公園の桜」は、音楽 映像 編集の力が突出している。まだ見ぬ弘前の桜に大きなドラマがある。日本本土の最北端、青森の弘前で咲き乱れ、散り積もる桜、桜、桜花の狂おしい。桜に覆われた別世界。心が泣いた。

審査委員 木川 剛志 氏（和歌山大学観光学部 教授）



地域プロモーション映像は移住促進を目的としたものから地方誘客といった観光目的へと少しずつシフトしてきました。しかし、オーバーツーリズムからコロナ禍を経た今、再びシビックプライドを醸成することが映像に期待される時代となったのではないのでしょうか。“バズる”ことによって外の人たちの認知度を高めるのではなく、地域の潜在的な魅力を可視化してそれを市民と共有する。今回もそのような映像が高く評価された結果となっています。

大賞に選ばれた「101回目への弘前公園の桜」はコロナ禍に翻弄された今年だからこそ生まれた映像でした。心を込めて桜を支える人たちの優しさが美しい映像とともに届きました。優秀賞に選ばれた「小城のおと」は斬新な映像でした。映像は視覚だけでなく五感に響くもののはず。ところがやはり視覚に依存する我々がいます。聴覚による想像を喚起させる表現によって逆に全ての豊かさを感じることができる映像でした。

審査委員講評

審査委員 松原 亨 氏(株式会社マガジンハウス コロカル編集部編集長)



集まった作品の表現の手法は多種多用で、それぞれに工夫があり、比べて優劣を決めるのは難しいと考え、こちらの心に迫ってくるパワーの大きさを評価基準にしました。そう思って観ると、ドキュメンタリー手法の作品により大きなパワーを感じました。

コロナ禍という今の社会状況にあるから、そのような表現に魅力を感じているのかもしれないな、とも思います。

審査委員 谷中 修吾 氏 (一般社団法人INSPIRE 代表理事)



コロナとともに歩んだ2020年は、地域の価値を見直す機会にもなりました。その時代環境の中で、「会いにいけなくても繋がれる」をテーマとした今回の動画大賞では、地域プロモーションにおける動画の目的を明確に意識した上で、どれだけ具体的にターゲット視聴者をイメージして価値を訴求できたかが強く問われたと思います。いかにクリエイティビティが高くとも、本来の目的と乖離してしまっては意味がありません。移住を促進したいのか、観光を促進したいのか、地域ファンづくりを促進したいのかなど、目的が明快であった動画は、強いキーメッセージが内包されていたと思います。

また、制作した動画を的確に拡散するためのデジタルマーケティングの設計と展開も極めて重要です。動画の制作で手を緩めることなく、配信および効果測定という一連のプロセスをやり抜いてこそ、真の地域プロモーションが実現されていくことでしょう。

審査委員 北村 潤一郎 (一般財団法人地域活性化センター 常務理事)



今回はコロナ禍というかつて経験のない状況での動画作成になったが、これまで同様、それぞれに工夫を凝らし地域の魅力に溢れた数多くの作品の応募があり、大いに楽しませてもらった。

なかでも大賞の「101回目への弘前公園の桜(2020)」は、第100回弘前さくらまつりが中止となり公園が閉鎖されるという特別な状況下、無人の園内で撮影されたものである。桜だけが見事に咲き誇り桜吹雪が舞い散る神秘的な映像は、思わず息をのむ美しさであった。同時に、人間の暮らしをはるかに超えたスケールで繰り返される自然の営みの雄大さに思いをはせずにはいられなかった。優秀賞「小城のおと」は、「音」を主役として小城の風景や特産品の魅力がうまく引き出されており、味わい深い作品に仕上がっている。

第8回ふるさとパンフレット大賞 審査結果

開催趣旨

地域活性化センターでは、平成23年度から日本橋プラザビル1階（東京都中央区）に全国の自治体パンフレットを集めた「ふるさと情報コーナー」を設置し、運営してきた（昨年度からはデジタルサイネージによる運営）。全国各地には、独自のセンスで地域の魅力を発信しているパンフレットが数多くある。当センターでは、全国にある秀逸なパンフレットを発掘し、表彰するとともに地域情報の発信を支援するために、「ふるさとパンフレット大賞」を実施する。

審査委員

審査委員長	南 伸坊 氏	（イラストレーター）
審査委員	楓 千里 氏	（國學院大學研究開発推進機構 教授）
	パッケン 氏	（お笑い芸人 パッケンマッケン）
	マッケン 氏	（お笑い芸人 パッケンマッケン）
	北村 潤一郎	（一般財団法人地域活性化センター 常務理事）

募集テーマ

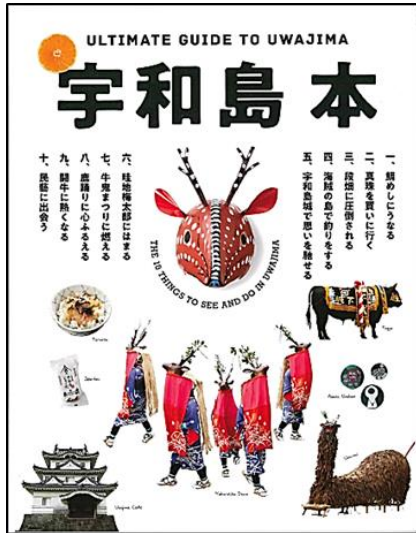
わくわくドキドキ！ わたしのまちの魅力発信

応募作品数	受賞作品数
107点	8点

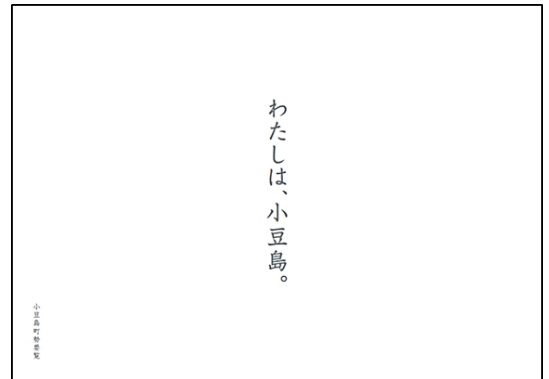
賞（各1点）	受賞自治体・作品名
大賞	愛媛県宇和島市「宇和島本」
優秀賞	香川県小豆島町「小豆島町町勢要覧「わたしは、小豆島。」」
南伸坊賞	栃木県栃木市「地と」
楓千里賞	東京都東大和市「デザインマンホール設置マップ」
パッケン賞	埼玉県越谷市「こしがやエモいマップ」
マッケン賞	北海道北見市「北見焼肉指南～焼肉といえば北見でしょ。～」
地域活性化センター賞	京都府福知山市「明智光秀からの「謀反のお知らせハガキ」」
特別賞	新潟県南魚沼市「南魚沼産コシヒカリ 農/KNOW THE FUTURE」

第8回ふるさとパンフレット大賞 入賞作品

《大賞》愛媛県宇和島市
「宇和島本」



《優秀賞》香川県小豆島町
「わたしは、小豆島。」



《南伸坊賞》栃木県栃木市
「地と」



《楓千里賞》東京都東大和市
「デザインマンホール設置マップ」



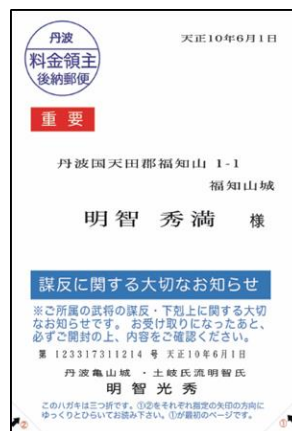
《バックン賞》埼玉県越谷市
「こしがやエモいマップ」



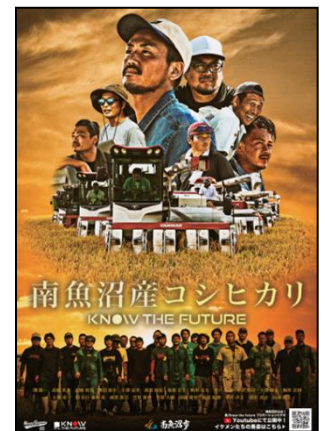
《マクン賞》北海道北見市
「北見焼肉指南
～焼肉といえば北見でしょ。～」



《地域活性化センター賞》京都府福知山市
「明智光秀からの
「謀反のお知らせハガキ」」



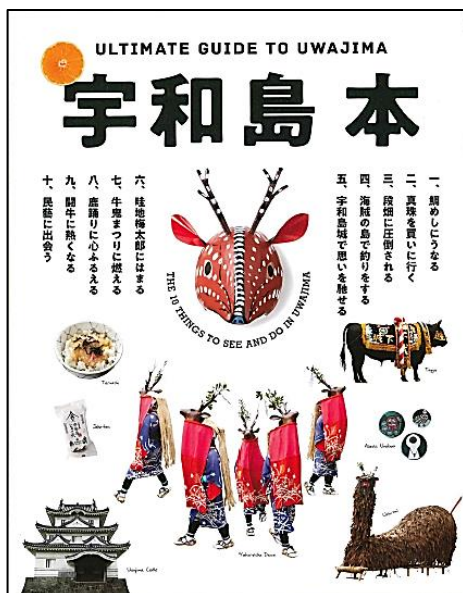
《特別賞》新潟県南魚沼市
「南魚沼産コシヒカリ
農/KNOW THE FUTURE」



大賞

愛媛県宇和島市

宇和島本



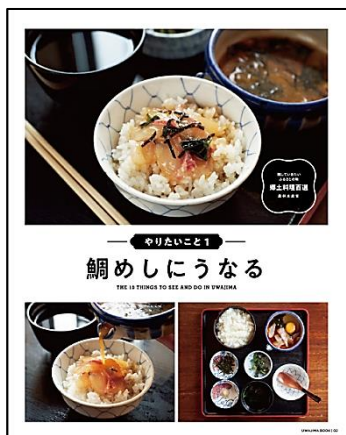
作品概要

地域外からの誘客促進だけではなく宇和島市民にも長く愛されるために、奇をてらったものよりも、正統派な構成で制作を進めた。写真にこだわってビジュアルを重視しつつも、「宇和島でやりたい10のこと」とテーマを分けて、それぞれの情報を深掘りしたしっかりした読み物とすることとした。それにより、ビジュアル的にも思考的にもまさに「見ているだけで、まちの魅力が感じられる」ものへと仕上げることができ、正統派でありながら、手に取って見てみたい、情報が深い、より知りたい、とイメージの連鎖を本パンフレットに生み出すことができたと考えている。

<https://www.city.uwajima.ehime.jp/book/list/book136.html>

審査コメント

- ・表紙に目次とそれぞれのビジュアルを配して、興味をそそる、オーソドックスでありながら、内容にも魅力があり、全てにわたってバランスがいい。
- ・書店で販売されているガイドブックと見間違えるほどの完成度の高さと、審査会満場一致で大賞に決まった。メイン特集を「宇和島でやりたい10のこと」でしっかり固めながら、サブテーマの「プロが教える写真のコツ」「旅のコラム」「旅の便利帖」を上手く配し、興味が途切れない構成に脱帽。誌面内容に合わせて、さりげなく紹介している「旅のおとも本」も見逃せない。宇和島市のホームページに、「読みやすく、読みたいと思わせるように雑誌形式で刷新しました」と掲出されているが、狙い通りの仕上がり。



受賞団体コメント（愛媛県宇和島市商工観光課）

この度は、大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます！

「宇和島の魅力がわかりやすく伝わること」「宇和島に行ってみたいと思えるもの」をコンセプトに作成いたしました。

地域外からの誘客促進だけでなく宇和島市民にも長く愛されるために、奇をてらったものよりも正統派な構成で制作を進めました。写真にこだわってビジュアルを重視し、「まちの魅力が感じられる」ものへと仕上げることができ、正統派でありながら、手に取って見てみたい！より知りたい！とイメージの連鎖を本パンフレットに生み出すことができました。

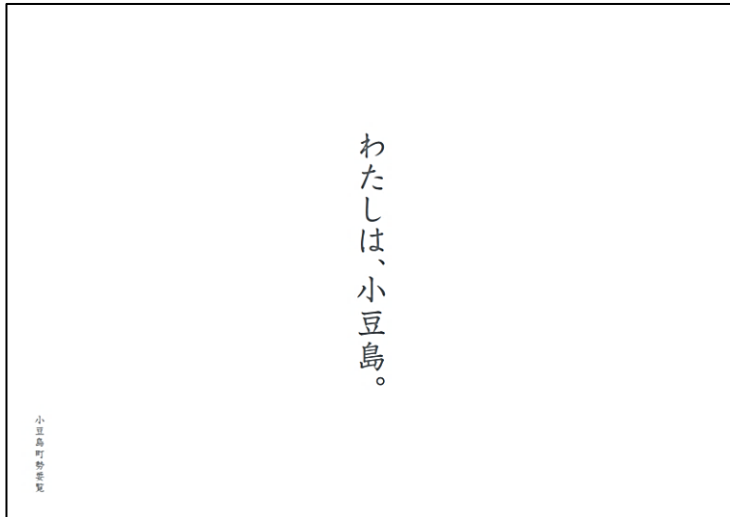
宇和島市民の方々からの反応が大変好評で、担当としてはそれが一番嬉しいです！自分のまちを自慢できるツールとしてぜひ使っていただきたいと思います。

最後になりますが、「宇和島本」制作に携わっていただいた多くの方々に感謝を申し上げたいと思います。色々書きましたが、とにかく一度手に取って読んでみてください！

優秀賞

香川県小豆島町

小豆島町町勢要覧「わたしは、小豆島。」



作品概要

「まちの名刺」として活用できる冊子を目指して作成した。小豆島の「豊かで多様性のある魅力」を表現するために、自然や文化などひとつひとつの魅力を主人公にし、それらが集まり、高めあうことで小豆島の魅力となっている、というストーリーに仕上げた。関係人口が増えつつある今、これまで小豆島を支えてきた人、また新たに小豆島で頑張っている人を取り上げたり、VRを使用して小豆島の風景や伝統産業が体感できるように工夫している。

<https://www.town.shodoshima.lg.jp/material/files/group/6/chouseiyouran.pdf>

審査コメント

- ・素気ない程シンプルな表紙をめくると、小豆島の「宝物」が、ギッチリつまって、よく作り込まれている。表紙との落差が戦略的。
- ・白地に「わたしは、小豆島」だけの文字の表紙や、左右297ミリ天地210ミリの横長の判型を上手く活かした本文デザインが目を惹いた。登場する島の方の柔らかな表情が、小豆島の穏やかな空気を伝えてくれる。デザインだけでなく、コピーも優れており、「わたしは、」から始まる各テーマの見出しは、カルタのように島の皆さんが覚えやすい言葉が選ばれている。表紙に小さく「小豆島町勢要覧」と記されているが、観光パンフレットとしても十分役に立つ一冊。
- ・その日常や子育て、福祉など地域の暮らしを島の人々が「わたしは、」という一人称で語ることで、島の魅力をどこまでも真面目に表現している。



受賞団体コメント（香川県小豆島町企画財政課）

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

瀬戸内海に浮かぶ小豆島・小豆島町の「魅力は何ですか？」と尋ねられたら、「豊かな多様性に恵まれた町」だと思います。今回の受賞も「小豆島の魅力」のおかげです。

町勢要覧「わたしは、小豆島。」の作成にあたり、たくさんある多様な魅力をどう表現するか、大変悩みました。そして、雄大な瀬戸内海や山々の自然、オリーブや醤油などの産業、多様な文化など、それぞれが「わたし」という主人公になり、それぞれが寄り添い、互いの魅力を高めあうことで「小豆島」という島が創られていることを伝えたいと考えました。町が発展していくためには、外への魅力発信とともに、そこに暮らす町の人が、町に自信を持つことが大切だと考えます。「島の魅力」「島の宝物」といった言葉が薄っぺらにならないように心がけ仕上げたこの冊子をきっかけに多くの方に小豆島町を知っていただければ幸いです。

南伸坊賞

栃木県栃木市

地と



<https://www.city.tochigi.lg.jp/soshiki/5/27235.html>

作品概要

栃木県内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区（伝建地区）。伝建地区のPR冊子というと町並みや建物にフォーカスしたものが主流だが、この町らしさを伝えるために、あえてそこに暮らす人や商う人に焦点をあてた内容にした。嘉右衛門町伝建地区を拠点に活動する地域おこし協力隊が企画、編集、ライターとして関わり、つくり上げた一冊。装丁についても地元の印刷業者と打ち合わせを重ね、印刷工場での立会いのもと用紙や色合いにもこだわっている。

審査コメント

写真の美しさ、レイアウトの美しさ、地味ですが真面目に取材・編集された内容、とすべてにわたって堅実につくられたパンフレットです。

目を引く、思わず手に取らせる、という意味では新味のある工夫や、奇抜なアイデアというのかもしれませんが、表したいこと・伝えたいことの内容とそぐわなくては、変なものになってしまいます。

デザインや写真の実力が、内容とアピールを支えています。



南伸坊委員長

受賞団体コメント（栃木県栃木市蔵の街課）

この度は、大変栄誉ある「南伸坊賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。

冊子「地と」は、栃木県唯一の重要伝統的建造物群保存地区である嘉右衛門町伝建地区を、より多くの方に知ってほしいという思いから、この地域で活動する地域おこし協力隊やカメラマンが中心となり製作したものです。伝建地区は町並みが評価されて文化庁より選定されるもので、建造物等が注目されることが多いです。しかしあえてそこに暮らす人、商いをする人たちに焦点を当て、ここにしかない魅力を伝える内容としました。冊子を通じて、歴史的建造物の中にあるストーリーや、人のぬくもりを皆さんにお届けできたらと思います。この賞をいただいたことをきっかけに、一人でも多くの方が栃木市や嘉右衛門町伝建地区に興味を持ち、訪れていただけたら幸いです。

楓千里賞

東京都東大和市

デザインマンホール設置マップ



作品概要

デザインマンホールは、回遊性を高めるために市内24か所に点在して設置していることから、市外の方が見ても設置場所が分かるように、全ての設置場所の写真と周辺の地図をマップに盛り込んだ。ウォーキングを楽しみながらマンホールを見つけてもらえるように、携帯性を高める観音折にしている。またコレクター心をくすぐるように、チェックボックスを設けている。

<https://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/34,100936,350,html>

審査コメント



楓千里委員

マクン委員は旅先でいつもマンホールの蓋に注目し、写真で記録する「マンホール観察者です」と審査会のお話して下さいました。また、南審査委員長もメンバーである「路上観察学会」会員の林丈二さんは、1980年代から国内外のマンホールの蓋の観察を続け、関連する書籍も数冊上梓するまさに「マンホールの蓋観察」の師匠的な存在で、南さんも一緒にマンホール観察をしていたそうです。お二人とも、このパンフレットを個人賞に推薦しそうな雰囲気でしたので、真っ先に楓賞とさせて頂きました。遠出がしにくいこの時期に、ご近所散歩のお供にぴったりなパンフレットです。24か所それぞれに丁寧に地図が付いている親切さも、高く評価しました。東大和市民以外でも、デザインマンホール探しが楽しめるように、広くPRしては如何でしょうか。

受賞団体コメント (東京都東大和市産業振興課)

＜東大和市は、下も向いて歩こう＞

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございました。

東大和市では、市観光キャラクター「うまべえ」をモチーフに、市のシンボル「多摩湖」をはじめとした豊かな自然や、史跡、モニュメント等の魅力あふれるスポットをテーマとした12種類の図柄のデザインマンホールを作製しました。

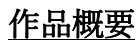
このマンホールは、テーマとなったスポット付近の市内24か所に点在して設置しており、マンホールを巡ることで、おのずと東大和市の魅力を発見することができます。

パンフレットの作成にあたっては、何度も現地に足を運び資料を集め、遠方からいらっしゃる方でも楽しくマンホールを探していただきたいとの想いを込めて、全ての設置場所の写真や地図を掲載しております。

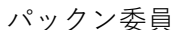
また、このパンフレットは「東大和市創業塾」の修了生であるデザイナー「三澤裕太」氏の作品で素敵なデザインのマップとなりました。

東大和市にお越しの際は周囲の安全を確認のうえ、「下も向いて！」歩きながら、デザインマンホールを探し、東大和市の魅力を体感してください。

こしがやエモいマップ



https://www.city.koshigaya.saitama.jp/citypromotion/toshiimage/k_emoimap/emoimap.html



審査コメント

越谷もいきたいですが、同じ気持ちで自分の近所で見落としていたいいものを意識したいです。

受賞団体コメント（埼玉県越谷市観光課）

越谷市は、埼玉県 of 東南部地域に位置する中核市で、日光街道第三の宿場町としてにぎわいをみせた文化・街並みと、水辺を活かした新しいまちレイクタウンが共存しているまちです。

この企画に関わっていただいたこしがやで学ぶ学生、こしがやで働く社会人、こしがやで暮らす住民、すべての皆さんに感謝いたします。

今後も、まちと関わる市民一人ひとりが描く“こしがや”の魅力をプロモーションしていきます。

マツクン賞

北海道北見市

北見焼肉指南～焼肉といえば北見でしょ。～



作品概要

北見市民のソウルフード・ご当地グルメとして親しまれる北見焼肉について、出張客や国内外の観光客も気軽に楽しめるよう広く周知するため制作した。

中でも、市民の間に根付く独特な焼肉文化を「お作法」として紹介し、実際に試してみたいくなる工夫をしている。

(一社) 北見市観光協会ホームページ

<http://www.kitamikanko.jp/index.html>

審査コメント



マツクン委員

まず「焼き肉といえば北見でしょ。」という表紙のキャッチコピーが目に入りました。そして、表紙の焼き肉の写真・形がなんか変だな～と思ったのですが、最後のページでオチが分かるようになっていたのも面白いと思います。

中はとにかく焼き肉屋！焼き肉屋！焼き肉屋！そして所々に出てくる情報も、焼き肉のたれの秘密や、北見の焼き肉の作法なども焼き肉推し！観光地などの情報が一切載っていない徹底ぶりが素晴らしいと思います。

北見には何度かお仕事で行かせて頂いたのですが、焼き肉屋に行ったことはありません。地元の方に連れて行って頂いたのは綺麗な佇まいの料理屋。たぶん気を使って頂いたんだと思いますが、次に北見に行ったら絶対にこのパンフレットを持って焼き肉屋めぐりをしたいと思う、そんな一冊でした。

焼き肉といったら北見！インプットされました。

受賞団体コメント（北海道北見市観光振興課）

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

北海道の東に位置する北見市は東西に110kmある北海道で一番広い街で、海の幸、山の幸が豊富に集まる「オホーツクの台所」です。日本一の生産量の玉ねぎや、養殖の盛んなホタテなど自慢の食が多くありますが、北見市民が「当たり前」に楽しんでいる「北見焼肉」、その美味しさを伝えるためにはどうすればよいか？その点を突き詰めて制作したのがこのパンフレットです。

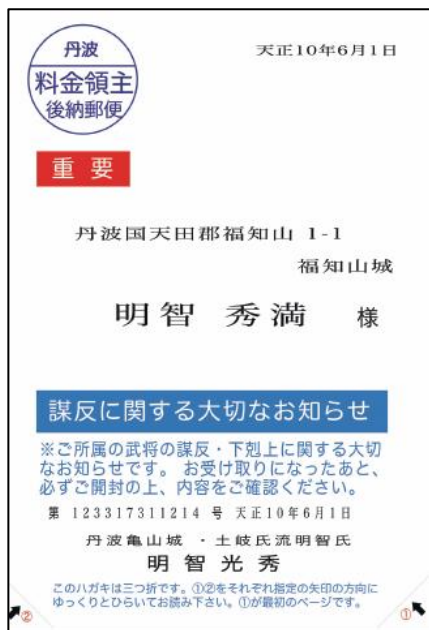
北見焼肉の歴史と特徴を紐解きながら、表紙には北見市の形の「肉」を焼いた写真を使うことで初めて目にした方に手にとってもらおうインパクトを作り、「北見焼肉を楽しむためのお作法。」ページを読んで「北見に行って焼肉を食べたい！」と思ってもらえるよう工夫し作成しました。

このパンフレットが受賞をきっかけに全国の方へ届き、みなさんにいつか北見焼肉を食べにきてもらえると嬉しいです。本当にありがとうございました！

地域活性化センター賞

京都府福知山市

明智光秀からの「謀反のお知らせハガキ」



作品概要

役所ハガキのパロディ画像を、市役所が実際に圧着ハガキ化。

明智光秀が、福知山城にいる家臣に謀反（本能寺の変）への参加を通知する内容で、デザインや文言は役所の通知ハガキのパロディ。スエヒロさんという歴史パロディ作家が手掛けた。

スエヒロさんがTwitterに投稿し2万リツイートされた画像を市役所職員がを見つけ、「明智光秀のまち福知山の全国発信」というミッションに対して成功の可能性のある素材だと感じ、素材が生きる形としてパンフレット化を構想した。画像の著作権はスエヒロさんにあり、福知山市は交渉を行い、画像活用の許可を得てパンフレット制作（圧着ハガキ化）を行った。

福知山市シティプロモーション <https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/site/promotion/>



北村潤一郎委員

審査コメント

本格的なパンフレットが並ぶ中で、「明智光秀からの『謀反のお知らせハガキ』」は異彩を放つ。ダイレクトメールによくあるハガキ（に似せたリーフレット）には「謀反に関する大切なお知らせ」と書かれており、開封せずにはいられない。そして、そこには福知山に縁のある明智光秀の略歴などと並んで福知山のスイーツや絶景ポイントがちゃっかり紹介されており、その魅力を伝える2次元バーコードまで付されているではないか！まいりました。

受賞団体コメント（京都府福知山市秘書広報課）

明智光秀ゆかりのまちとして、今年の光秀主人公の大河ドラマは悲願でした。ですが人々の価値観がコロナで変わり、パンフレットを受け取ることで感染症のリスクがあるのでとはためらう時代を私たちは生きています。

このパンフレットは、福知山市が考えたものではありません。作者は、Twitterで歴史パロディ画像を発表されているスエヒロさん（@numrock）。市役所職員が投稿を見て圧着ハガキ化を打診、ご快諾いただき実現したコラボです。

withコロナ時代に「役所のパロディに役所が全力で乗った」ハガキは、福知山と全国の人、また海外の人までもつないでくれました。本当に、救世主だと思っています。

特別賞

新潟県南魚沼市

南魚沼産コシヒカリ 農/KNOW THE FUTURE



作品概要

南魚沼産コシヒカリの販売促進を始め、農業の素晴らしさ、従事する人々のカッコよさをPRすることにより、「職業選択肢としての農業の推進」「農業を契機とした南魚沼市への移住定住促進」「観光業を始めとした市内各種産業の活性化」など、農業全体、南魚沼市全体への効果の波及を目指している。

http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/58/knowthefuture_flyer.pdf

審査コメント

- ・まるで映画のポスターのパロディのようと思ったら、本当にショートムービーのためのパンフだった。何にしても「目をひいた」。
- ・You Tube上のショートムービーとポスター、パンフレット（チラシ）がトータルで企画デザインされており、その質の高さに圧倒される。チラシを一瞬見ただけでは映画館で上映される作品と勘違いしそう。
- ・You Tubeでは、若手農業者の勇壮なコンバインパフォーマンスが軽快な音楽と共に流れ、コシヒカリの美味しさも伝わってきた。イケメン揃いの皆さんの顔をしっかり確認できるのは、チラシの良さとも言えそう。

受賞団体コメント（新潟県南魚沼市農林課）

この度は大変すばらしい賞をいただき誠にありがとうございます。

今回のパンフレットは、市を代表する特産品である南魚沼産コシヒカリの販売促進、普及促進事業の一環として作成しました。

農業に従事する人々のカッコよさをPRすることにより、「職業選択肢としての農業の推進」や「農業を契機とした南魚沼市への移住定住促進」など、農業全体、南魚沼市全体への効果の波及も目的としています。

また、従来のコメのプロモーションの常識を覆すこと、農業や農山村地域に対するマイナス・イメージを払しょくすることにチャレンジしました。

今回制作したチラシや関連動画をご覧いただき、若手農業者の熱い思いを感じていただければ幸いです。

審査委員講評



審査委員長 南 伸坊 氏（イラストレーター）

奇抜で思わず手に取る、元気で楽しそうなビジュアル、手作り感のあふれる親しみの持てるデザイン…と毎年、それぞれ工夫のあるパンフレットを見てきました。

今年の傾向は、オーソドックスに美しいデザインと作り込まれた内容のものが、最終選考に残りました。



審査委員 楓 千里 氏（國學院大學研究開発推進機構 教授）

大賞の「宇和島本」は、書店で販売されているガイドブックと見間違えるほどの完成度の高さ。メイン特集を「宇和島でやりたい10のこと」で固めながら、サブテーマの「プロが教える写真のコツ」「旅のコラム」「旅の便利帖」を上手く配し、興味が途切れない構成に脱帽でした。

優秀賞の「わたしは、小豆島。」は、登場する島の方の柔らかな表情が、小豆島の穏やかな空気を伝えてくれます。表紙に小さく「小豆島町勢要覧」と記されていますが、観光パンフレットとしても十分役に立つ一冊です。



審査委員 パックン 氏（お笑い芸人 パックンマックン）

毎年楽しみにしているパンフレット大賞ですが、今年は少し複雑な気持ちで審査に挑みました。きれいな自然、おいしそうな食、優しそうな地元人を見せられても、実際に旅に出かけづらい世の中ですからね・・・。

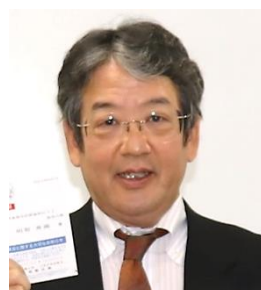
しかし、パンフレットをじっくり見ているうちに、徐々に気分が変わってきました。日本の地方は本当に恵まれているし、それらを数枚の写真と短い文章でうまく表す術がどんどん高まっているのです。居間の床に全パンフを広げ、一つずつ手に取りながらプチ旅気分を満喫しました。それでも、いつかは必ず現地に駆け付け、五感でその魅力を確認したいと思っています。



審査委員 マックン 氏（お笑い芸人 パックンマックン）

コロナの渦中、旅も自粛ムードになって観光地もPRしづらくなってしまう、今年はパンフレット大賞への応募が減少してしまうのではないかと心配しましたが、逆に去年よりも応募が増えたと聞き、ホッとしました。こんな時だからこそ、自分の住んでいる町の魅力を再確認出来たのかもしれないですね。

以前のように旅が出来るようになったら是非わが町を訪れてください」という思いが全てのパンフレットから伝わってきました。今年で8回目、毎年レベルがどんどん上がって来ているので、審査が難しくなってきました。



審査委員 北村 潤一郎 ((一財)地域活性化センター 常務理事)

大賞受賞作品をはじめユーモア溢れるユニークな作品が多く見られた昨年度とは打って変わり、今回は地域の魅力をストレートに伝える本格的なパンフレットが数多く並んだ。

とりわけ大賞の「宇和島本」は、奇をてらわずに、観光客にとって魅力的な「宇和島でやりたい10のこと」を前面に掲げ、グルメ、レジャーから地域の歴史文化や祭りに至るまで一つひとつ丁寧に解説している。そう、宇和島に行ってみよう。